

未来をつなぐ



筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター
茨城県厚生連 総合病院 水戸協同病院



すまいるみと

新年明けましておめでとうございます。
水戸協同病院が「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」を設置し早いもので3年目を迎えます。当院と筑波大学で創り上げたこの医師派遣システムは、他病院でも導入が決まりすでに動きだしております。当院のコンセプトは、プライマリケアを重視し早期診断、早期治療めざすこと。各診療科が連携した機能的なチーム医療を実践すること。地域の医療機関との連携を密にして患者様中心の地域医療を提供することです。今後もこの設立当初の理念を忘れずに精進していく所存です。3月には待望の新棟が竣工します。1Fが整形外科と脳神経外科などの外来とリハビリセンター、2Fが手術室、3Fが医局、4Fが講堂です。手術室は人工関節用のバイオクリンルームを含む5部屋で最新の医療機器を配備する計画です。これらを駆使し診療レベルの向上に努めて参ります。



病院長
平野 篤

年頭所感



新診療体制について

現在の常勤医師数は56名で、内「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」の教員は16名です。4月から神経内科と皮膚科、呼吸器内科、健康管理センターの常勤医師が赴任予定です。当院は昨年1月に二次救急指定病院となり、救急患者数もさらに増加しており、救急車応需数は年間約2700台です。今後とも地域のために最大限努力致しますが、医師の負担のみならず、看護師数や病床数にも限界がありお断りしなくてはならない場合もあることをご了解ください。

施設整備について

医療システムに関しては、すでに導入されていた電子カルテ機能に「画像通信システム」を追加してレントゲンフィルムレスを達成しました。さらに新手術室に備える眼科・耳鼻科の顕微鏡、LED无影灯、麻酔器、手術台、滅菌装置などを更新する予定です。

新年明けまして
おめでとうございます



です。

また当院は病院敷地内を全面禁煙とさせていただきます。これは皆様の受動喫煙の問題を深刻に考える必要があるためです。入院患者様にもお守りいただいております。タバコをやめられない方は禁煙外来にぜひご相談ください。



撮影：棚井 尚登

駐車場について

現在隣接する市営駐車場を割引サービスでご利用いただいております。曜日によっては混雑して周辺道路の渋滞を招いており大変ご迷惑をおかけしております。今後水戸市や商店会とも駐車場不足の問題は検討を重ねてゆく所存です。

職員募集について

昨年1月より「ひばり保育園」を開所しました。学童保育も含め充実した内容と低料金の拡大のために職員の募集を行っています。特に看護師で新しい形の教育病院で仕事をしたいと思われる方、准看護師で働きながら資格を取得したい方、ぜひお待ちしております。奨学金や支度金の準備もあります。水戸協同病院庶務課までお問い合わせください。

引き続き地域の皆様の健康増進に役立てるような病院作りを進めていきますので、どうぞよろしくお願い致します。



さらなる発展と 質の向上を目指して



センター長・教授
渡辺 重行

水戸協同病院・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターが発足し2年が経過しようとしています。この間、職員のみならず患者さん、それに救急の患者さんや入院患者さん、それに地域の皆様のご期待に添えるようになりつつあると思えます。皆様のご努力、ご尽力に心より感謝いたします。

当病院・センターでは、内科領域の各診療科の壁を取り払い「どんな疾患もみられる」新しい総合診療体制を構築し、各科の医師が合同で患者さんを診る体制を作りました。この体制は全国的にも非常に珍しく新しい体制であるとともに、当病院・センターの基本理念の重要な一つであります。ただ、どんな新しい試みも常にリフレッシュしていかないと時間とともに徐々に以前のセクショナリズム(部局割拠主義)に戻ってしまう恐れがあります。皆様ご存じのように専門科毎に細分化しすぎた専門分野別診療科構造は、患者さんの持つ各科にまたがる問題に対応することを困難にします。なぜなら、専門化が進めば、集団・組織内の各部署が互いに協力し合うことが減少し、自分たちが保持する権限や利害にこだわり、外部からの干渉を排除しようとする排他的傾向を必ず伴うからであります。この状態では、患者さんに全人的医療を提供することは到底できません。この排他的傾向は、組織内部の専門性を追求しすぎる

と必ず生じる機能障害であり、どここの病院にも普通に見られる状態です。前述のごとく当病院・センターではこれとは全く逆の全く新しい総合診療体制を構築し、100余床の内科ベッドを総合診療科が指導、コントロールし全ての内科医師、内科教官が診療に参加する体制をとっております。また、毎週一回の総合診療回診は、全ての科にまたがる内科医が一同に会して行われ、さらに外科の医師にも出席を頂いており、さらに本年4月からは常勤となる皮膚科医師にも参加頂くことになっております。もちろん、整形外科、眼科、耳鼻科などの各専門診療科も活躍も非常に絶大で、それらの科との間の協力連携体制が非常に良好なことも当院・センターの特色であります。この総合診療体制を今後も益々充実させてまいりたいと思っておりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願いいたします。

当病院・センターの基本的な理念は、上述の各診療科の壁を取り払った総合診療体



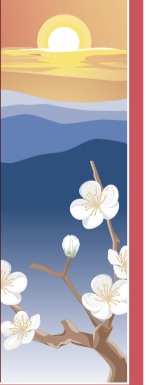
制に加え、それにより総合診療能力を有する医師を教育、養成すること、それを介し地域医療に貢献することであり、それを介しのご協力のお陰で、そのどれも目に見える成果を上げつつありますが、患者数の増加に伴い、各部署において種々のひずみや負荷が生じつつあります。今春の新棟の完成に伴い診療スペースの問題は改善方向に向かうと期待されますが、外来待ち時間、院内暴力・暴言、リスク管理、臨床研修の事務管理など、改善に向けて進んで行きたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

最後に、我々医療提供側と患者さんやご家族との信頼関係と良好なコミュニケーションは、患者満足度の上でも、リスク管理の上でも非常に重要な要素です。我々が提供した医療内容が同一でも、よりよい信頼関係とコミュニケーションが基盤にあれば、その評価は格段に向上し、逆にコミュニケーションが貧弱であると、評価は非常に低レベルにとどまります。医療の重要な一面はそれを提供する仕方のパフォーマンスにあるといっても全く過言ではありません。日頃から患者さんやご家族への声かけ、すれ違ったときの挨拶を是非実行していただきたいと思います。

末筆ながら、本年が皆様にとってより実り多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成23年1月

年頭の所感



事務部長
小林 尚祥

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

本年は卯年にあやかり、水戸協同病院も更なる飛躍の年となることを願っております。筑波大学との提携による医師の人材育成・地域医療への貢献を目指す「筑波大学附属病院水戸地域医療センター」は3年目を迎えます。このことにより常勤医師による診療体制の充実が図られ、昨年の受診者数は外来が111%、入院では116%と前年を大きく上まわり、特に救急車受入台数は約2700台、前年比126%に達しております。

これら増加する患者さんの受け入れに対応出来るよう看護師、コメディカルスタッフ体制も増員強化しており、特に、看護師さんについては随時募集を行っておりますので、病院までお問い合わせいただければ幸いです。

施設面におきましては、現在建築中の新東棟は3月に竣工し、バイオクリンを含む手術室、急性期リハビリテーション室、講堂等が整備されます。また、当初計画を一部変更し外来診療室の増設を致しましたので、今後、本館2階外来診療室の改修整備と旧リハビリ室を健康管理センターに改修整備する予定であります。

今後とも、農協病院・地域中核病院として地域の皆様のご期待に添えるよう職員一丸となって取り組んでいく所存であり、丸ごと支援、ご協力をお願い申し上げます。

年頭の挨拶



看護部長
柏 富代

謹んで新年あけましておめでとうございます。水戸協同病院に水戸地域医療教育センターが設置され3年目を向かえようとしております。看護部にとっても看護師獲得対策、教育研修体制の強化、新棟建築に伴う病床の配慮、ひばり保育園の開設等大きな転機でした。

今年度は看護教育の充実および筑波大学附属病院看護部との研修制度を組み入れ、

自己のスキルアップや認定看護師・専門看護師等を目指す看護職員を応援したいと思っております。

院内においては常に研修を受ける機会や、自己が目指す看護に触れることもできます。救急患者増加に伴い、安全・安心な医療を提供するうえで、看護師数や病床数にも限界が生じますので、働きやすい環境提供とともに看護師確保をおこなっていく所存です。

看護部の理念でもある「患者中心の看護」の言葉の重さを念頭に、常に患者のそばに寄り添い、生命と向き合いながら、地域の皆様にご期待に添えるよう、医療地チームとしての役割を遂行してまいりたいと思っております。なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

患者さまにクリスマスプレゼント…。



クリスマスコンサート



昨年末12月22日、患者さまにクリスマスプレゼントを企画いたしました。病院玄関ホールでのクリスマスコンサートです。大成女子高校看護学科3年生41名のキャンディルサービスとクリスマスソング、ハンドメイドクリスマスカードのプレゼント、そして、職員によるフルート・トロンボーン・ユーホニウムのクリスマスソングの演奏です。看護学生さんのエネルギーをクリスマスカードや歌のプレゼントを通して頂くことができました。患者さまもサプライズに笑顔と驚きのお顔でした。演者とホールの観客席が一体となり短い時間でしたが、素敵な聖夜のクリスマスコンサートを楽しむことができました。

萩野谷登志子



コラム 研究員に聞いてみよう！

外食・間食をどうくらいつくりますか？



外食やジャンクフードなどの間食の消費は、地域で異なる特徴があるようです（家計調査2010年）。肥満率の高い地域では、ファーストフードなどの外食や、スナック菓子などの利用が多いことが示されています。茨城県は肥満者の割合が全国5位と高く、またお菓子など間食の購入



金額も、全国で2位だったそうです。銘菓が多いからでしょうか？
外食や間食は肥満や糖尿病患者さんの食事療法で大きな課題ですね。1日に摂取するエネルギー量が消費するエネルギー量を上回らないように、食事だけでなく間食や外食もコントロールすることが大切です。

栄養部 平安座 依子

ちよつと薬の話

漢方薬について



最近、食欲がなくて身体もだるいし、何となく疲れやすい…
そんな時、「漢方薬」という言葉を耳にしたけれど、一体どんな薬？
みなさんはどんなイメージを持たれていますか？

漢方薬は、数千年の年月をかけて、患者様の症状に合った生薬の組み合わせを生み出しました。それをもとに、日本の現状に合わせてできたのが漢方薬です。小さく刻んだ生薬を煎じて飲む生薬もありますが、現在広く使われているのは、煎じ薬を乾燥させてアルミパックに入れ持ちやすく、また飲みやすくしたエキス製剤（医療用漢方製剤）です。

当院でもたくさん種類の漢方薬を採用しています。
漢方薬は、患者様一人ひとりの体質や病気の状態を見極めながら使い分けます。ですから、同じ病気でも患者様の状態によって、飲む薬が違ったり、ひとつ

の薬がいろいろな病気に使われることがあります。
西洋薬が、切れ味の鋭い即効性のある薬に対して、漢方薬はいくつもの成分が助け合って働くことで、様々な症状にマイルドに作用を示します。

漢方薬は安全、というイメージを持たれている方も多いと思いますが、好ましくない作用もあります。味や香りになじめない、飲む量が多くてお腹がふくれるなどのほかに、アレルギー体質の人はまれに発疹がでることもあります。また、漢方薬とその他のお薬との組み合わせにも注意が必要です。是非、お薬手帳を活用して下さい。
漢方治療は、患者様の体質、症状などをもとに行われています。そのためには、薬を正しく指示通りに飲むことを心がけましょう。

薬剤部 椿 優子



筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター
茨城県厚生連 総合病院 水戸協同病院



筑波大学
University of Tsukuba

看護師就職説明会 看護学生奨学金説明会



心でつながる地域医療、誇りを持って仕事をしませんか
就職を希望する看護職の方、看護学生大歓迎

日時 平成23年2月26日(土) 10時~12時

3月19日(土) 13時~15時

会場 水戸協同病院 会議室

お問い合わせ TEL: 029-231-2371(担当 平野・長谷川)

メール: kangobutyouty@mitokyodo-hp.jp

予約不要です。お気軽にお越し下さい。



看護部サイト